

QOL向上サービス 研修参加者の声

「TURE VALUE ～真の価値～」事業部

「心の翼 ～WING OF HEART～」事業部

株式会社 昭和観光社

◇参加者

- A様 男性 株式会社 P-TEX
- S様 男性 ご利用者様(要介護 2)
- S様 女性 奥様
- D様 女性 ご利用者様(要支援 1)
- I様 男性 心の翼トラベルヘルパー
- K様 女性 心の翼トラベルヘルパー(初参加)
- T様 女性 デイケアなんかい職員
- T様 女性 大学生
- A様 男性 (株)P-TEX 代表取締役
- N様 女性 放送局 記者

研修当日様子



◇参加者の声：(株)P-TEX 介護予防とデイサービスでのリハビリ指導事業A代表取締役

ICFの考えでは、①心身機能・身体構造からリハビリを進め、次に②活動（自宅で生活できるリハビリ）を進め、その先に③参加（社会参加）の意欲を引き上げ実践につなげる。

現状では、③のご本人の意欲を引き上げる目標設定までいきにくく、また目標における課題があり、その課題をご本人や家族の方関わるスタッフが諦めているケースがとても多い。

①はデイサービスなどで②は訪問リハビリなどで事例は見受けられるが、③の事例は見受けられない。

今回は、協賛企業として一緒に当日の内容を一緒に体験させていただきましたが、まさに社会参加の小さな多種多様なバリア体験をして頂くことで、ご本人や家族の方へ自信をつけさせ、さらには誰もが諦めている場所「浜辺の波打ちぎわ」で手の届きそうな「社会参加目標」を考えて頂く企画は素晴らしいと思いました。

さらに、ご自身の許容範囲では分からない、社会参加におけるバリアの克服点が見つかり、

担当ケアマネジャー様と連携し、その人の機能障害などがあっても、適切なサービス（通所・訪問など）や環境が整えられることで、活動と参加程度が高められることができる事例をつくられたことは、これからの社会に必要な素晴らしい価値のある事例だと思いました。

◇参加者の声：デイケアなんかい職員 T 様

デイケアなんかい利用者さんの D 様の見守りの為、一緒に参加した看護師（ケアマネジャー）です、研修会の内容は休憩所の展望台までの長い坂道の登り下り、松濤園見学場所の凸凹、きれいな瀬戸内海の景色が見られる見晴らし台の急な階段、砂浜での散歩など盛りだくさんの計画でしたが、長い休憩を取りながらで無理はなかったと思います。

D 様は、すべての場所において難なくクリアされましたが、一番驚いたのは浜辺です、歩行速度も速く、また海の方に少し傾斜のある波打ちぎわを歩くとき体のぶれもなく真っすぐに歩かれ、感動いたしました。

日頃、取り組んでいるリハビリ、何よりも好奇心を持ってチャレンジされるご本人の高いモチベーションの成果ではないかと思いました。

デイケアでのリハビリの効果、または在宅での日々の運動量などが分かる良い検証の機会を頂きました。

参加された皆様が笑顔で楽しそうにされ、また行きたいと言われているのを見ていて、外出することでモチベーションが上がり、日常生活に希望と自信が出来るのかなと思いました。

これからの超高齢社会に元気でいてもらうためには、体に障害のある方や高齢者で自分一人や夫婦だけでは外出できない方の為のシニアサポーターの増員と適切な介助の教育が急務だと心より感じました。有難うございました。

◇参加者の声：デイケアなんかい職員の娘さん T 様（大学生）

何歳になっても目標を持って生き、みんなが集まりもっと頑張ろうとか、こうなりたいとか思える場所があるのはその人にとって良い刺激になり、これからの人生を楽しくより豊かにしていくと感じました。また、何か目的を持って生きている人は時間を大切に、毎日を精一杯生き、何歳になってもずっとキラキラしているように見えました。

砂浜を歩く姿を見て感じたことは、普段とは違う環境に出ることは、新しい場所であり、新たな出会いもあり、今までその人の中に眠らされていたものを開花させるようなものなのかなと思いました。

自分ってこんなに出来るのだと感じたり、あそこに行ってもっと歩きたいと感じたりすることで、それがこれからの日々のリハビリのやる気に繋がると感じました。

◇参加者の声：心の翼旅行サポーター I 様

蒲刈島に入りすぐにトイレ休憩と展望台散策

S さんは手押し車を押しての歩行となりました。手足の老化により少し歩行困難ではありましたが、方向転換時や転倒予防に注意しながら、ゆっくり歩き展望台まで行かれました。私たちの声かけも安全とともに「上の景色がいいよ。展望台まで頑張りましょう」と登りたいという意欲を上げることを心掛けました。平坦な道でなく少し傾斜を登ることで、足のリハビリ体験となり良かったと思いました。

杖歩行の D さんはいままでのリハビリ効果も出て、社会参加意欲ももたれて、積極的に歩行されていました。お話を聞くといつもリハビリを頑張りここまで回復されたそうです。

松濤園

Sさんは出来るだけ手押し車を押して歩行して頂きましたが、建物の中や石を敷き詰めたお庭は車椅子に乗っていただき、サポーターが支援方法を学ぶ機会となりました。いろいろな場面に富み手引きや車椅子を押す方法を学ぶ絶好の場所でした。

恵みの丘公園

建物に入る階段は手引きで頑張って歩いてもらいました。ここでも「おいしい食事をいただけるよ」と食事の意欲を高めてもらい頑張りました。

公園の見晴らし台の手すり付きの長い階段では、手すりを持ち手引きで左右の足を揃えながら登ってもらう予定でしたが、早く上がって景色を見たい欲望から右足左足を交互に一段ずつ登られ元気な姿を披露されました。見晴らし台では四国や近くの島々の景色を堪能されました。サポーターが同行していればこのような支援を受けて旅行を楽しむことができます。このことからリハビリ介護予防に参加して、老化防止・現状維持さらには歩行改善することで社会参加に積極的になれることを望みます。

県民の浜

歩行困難な方は砂浜の海辺まで行くことはなかなか困難と思います。でも支援する人と一緒なら浜辺まで行けます。この浜辺では車椅子で狭い木道を通ることや砂場での走行について学びました。杖歩行の方も注意して歩かないと砂浜が傾斜しているので、海の方へと歩いてしまいます。ご夫婦そろって浜辺に腰掛けて、ゆっくり流れる時間を過ごされ、その後ろ姿にご夫婦の幸せな人生を垣間見たようです。砂浜でゆっくり夕日など見ながら「意欲があれば外に出られる。頑張ろう。」と思われたことでしょう。

この旅行を通して感じたこと

要支援の方も「車椅子で浜辺まで行こう。〇〇を見てみたい」と目標を持って、リハビリすることでその効果を生みます。バスステップの乗り降りの際、手や足の場所を誘導してあげるだけで外に出られます。車いすの方もリフトバスを使えば、外に出られます。生活をエンジョイしましょう。

いろいろな機関が役割分担しながら地域社会を支援支え合うサポーターと協力して外出機会が増えれば、支援の必要な方々の想いが実現し介護予防にもなり、素晴らしいことだと思っています。

◇参加者の声：心の翼旅行サポーターK様（初参加）

歩行困難なS様の介助を担当し、バスの乗車時の左右の手足の置き場を事前に声掛け誘導し、ゆっくり移乗していただくこと十数回、また見晴らし台の階段昇降では一部介助と参加者の応援もあり、階段を登り、後ろ向きでなく前向きで降りられるなど、普段はされない行動に奥さんも感動された様子でした。「もう少し景色を楽しみたい…。」また、普通は遠目で見ただけの浜辺ですが、介助者3人で波打ちぎわまで案内し、一部介助で浜辺を歩いていただき「海の香り・波の音を感じながらのひと時」は穏やかな表情のお二人にとって「真のQOL」な一日だったのではないのでしょうか！ 和気藹々とした雰囲気と心遣いに感謝、私にも心のQOLな一日だった。